

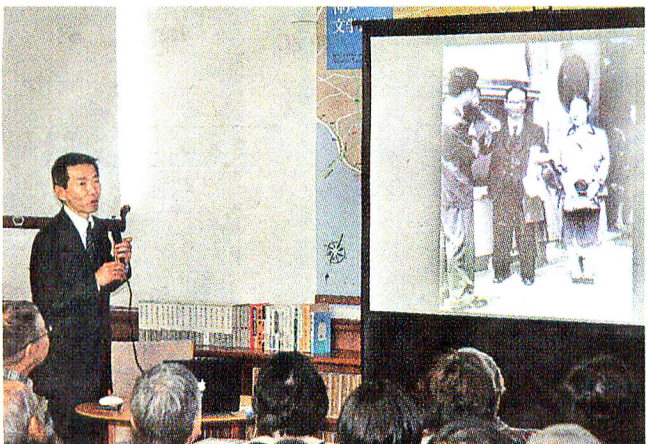
賀川豊彦の孫が講演

祖父母の思い出紹介

灘 区

日本を代表する社会運動家賀川豊彦（一八八八一—一九六〇年）の歩みを文学でたどる企画展を開催中の神戸文学館「灘

区王子町三〇で二十四日、孫の督明さん（五）が祖父母について語る講演会があり約八十人の市民らが熱心に耳を傾けた。督明さんは、賀川豊彦の長男純基氏の次男。グラフィックデザイナーとして活躍し、神戸での活動百周年に合わせて事業を展開する「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト委員会」のメンバーも務める。督明さんは、毎朝の家族での礼拝を写した写真



祖父としての賀川豊彦について語る孫の督明さん＝神戸文学館

などを見せながら、祖父の最も印象深い思い出は、「晩年、病で寝ている祖父を訪ねた時にしっかりと握手したこと」と振り返った。

また祖母ハルについては、常に三、四十通の通帳を扇形に広げ、満期になると少額でも援助先に送金していた姿を紹介。

「祖父が始めた事業を祖母が支えて続けようとしたのだと思う。事業継続が一番大切だと学んだ」と話した。（河尻 悟）